

Title	シリング神父の業績
Sub Title	
Author	岩谷, 十二郎(Iwatani, Jujiro)
Publisher	三田史学会
Publication year	1954
Jtitle	史学 Vol.27, No.4 (1954. 11) ,p.96(594)- 106(604)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19541100-0096

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

通訊、と光明日報の史學副刊等の數種に過ぎない。此の數種は都て彼自體の條件の制限を受けて全面的史學の刊行物たり難いものである。科學院は考古學報を出版したが史學集刊は停刊とのことである。故に史學工作は定期出版物としては比較的寂寞の觀がある。無組織、無指導と自由討論、批評、自己批判なき狀況の下で沈鬱な空氣の中にあつては、史學工作者の熱情を窒息せしめ、全面的刊行物の出版は之を望むことの出来ないことは必然の勢である。

第四、各大學の歴史系に聯絡缺乏す。

史學工作は以上言ふ所の三種の情況の下では、各人独自の工作をするのみで、各大學の歴史系は自己の問題にのみ没頭し、所謂「小國寡民彼此不相往來」で史學工作の自流現象を發生し、又サポタージュとも言ひ得るものである。以上の四方面は相互關係のもので、組織なく、指導なくしては、容易に力量の發揮は望むことも出來ず、從て自由討論出版物刊行などは至難である。

解放後四年來新中國の史學工作の成績は肯定すべきでもらうが、また其の缺點も亦承認すべきものである。只我等は此の種の現象を認めて、發展過程の途上、當然のことと思惟するものである。我等は確信す「マルクス」主義と毛澤東思想指導の下にあつて、自己の豊富な歴史文献と優良な傳統に依據し、熱心に蘇聯先輩の經驗、有組織、良指導を學び、あらゆる史學工作者を團結して自由討論と批評、自己批判の風潮を樹立すれば、必ずや史學を

活動させ、祖國の建設に合致して彼自身の光輝を發揮するであらう。

一九五三年九月二十五日

北京に於て

方回

シリング神父の業績^(*)

はしがき

これはアルチボ・イベローアメリカノ誌四三號 (Archivo Ibero-Americano, 1951, año XI, julio-Septiembre núm 43.) 四三—三五七頁に掲載されたオドルフォ・シェーファー (Odufo Schäfer) とアントリン・アバー (Antolin Abad) 兩神父 (フラスシス會) の共同執筆にかかる El P. Doroteo Schilling, O.F.M., Misionero y Misorólogo (宣教師、宣教學者なるフランシスコ會員ドロテオ・シリング神父) を譯出したものである。本稿は二部に分れ、最初にシリング神父の傳記、次に著作目録 (講演、未刊書も含む) を附して成立つてゐる。スペインの戦後刊行の日本史關係の資料を整理してゐるうちに、この譯出を企てた。傳記の項は幸、全譯が可能であつたが、ピブリオグラフィの項は紙面の都合から講演を除いたものの中、更に日本關係のものと小論掲

載誌名を轉載するに留まつた。何時か譯註を施し、整理按配をして使用上の便宜に資したいと思ふ。

譯者

意識を失ひながらも念頭から去らなかつたスペインの幸運な國名を口づさみつつ、ドロテオ・シリング神父は一九五〇年六月五日、ローマのフランシスコ會聖アントニオ教座大學 [Pontificio Colegio de San Antonio] に永眠した。

師は一八八六年六月二〇日、アルテンミットラウ(ドイツ)で生まれ、一九〇五年四月二十五日僧籍に入り、チューリンギア州にてフランシスコ會に入會した。修道時代から堅固な信仰心、秀でた才能及び徹底した宣教師の適合性等、師の宗教家生活全般を特色あるものとしたぎざしを見せた。フライブルグ大學に學び、哲學の學位を得た。一九一二年七月十四日に司祭の品級を受け、命ぜられて北日本の傳道に赴任した。同地では函館神學校の校長、並に週刊誌『光明』の編輯者となつた。一九二〇年に歸國し、程なく師の愛する日本傳道のため、基金募集の目的を以つてアメリカへ渡つた。一九二八―九年を師はスペイン及びポルトガルの圖書館、文書館を歴訪し、資料の照合に費した。即ちミュンスター大學に提出してゐた宣教學に關する學位請求の論文に備へるためであつた。宣教學部が聖アントニオ大學に設けられるや、招かれて宣教方法論及び牧職神學 [Metodologia y Pastoral Misioneras]

の講壇主宰にあつた。更に翌年は布教聖省大學 [Pontificio Colegio de Propaganda Fide] につき、日本語並に日本文學の講座が委託された。根本的には教理説明法を師は論じてゐた。師の講義草稿は稿本の儘、假出版されてゐる。

シリング神父の學者的人柄

撓まざる文書館、圖書館搜訪の結果、師の心臓は障害を受け、ために行動と時間が制約され、諸發見の刊行が妨げられるに至つた。それ故、師の眞價を發揮せる、明かに頗る價値高き勞作の數は百に留まる。しかしそれらは主題が多岐にわたる事と、個立してゐる事から全體の調和を形成してゐない。

「一五五一年より一六一四年迄の日本に於ける耶蘇會刊行物」
[La imprenta de los jesuitas en Japón desde 1551 al 1614]と題する研究が一九三一年に版に附された際、僅か八十七頁にしかならぬにもかかはらず、主題の趣向と著者の學問的良心から短期間で捌かれてしまつた。シリング神父は又吾人に日本の北の島、蝦夷(北海道)と、その興味ある植物誌と、同地で實現したフランシスコ會宣教師の事業を報じてくれた。

ツールーズ、アジュダ(リスボア)の文書館、圖書館を涉獵中師はイエズス會士ルイス・フロイス神父の日本傳道史 [Historia de las Misiones del Japón] 第二、第三部を發見した。これは

完全に散佚したものと認められてゐた。

レハルサ神父と共同研究で刊行してゐたベルナルディーン・デ・アビーラ・ヒロシに關する研究は少からぬ利便を提供するものであるが、スペイン内亂がその完結を拒んだ。師の目標は翌年の夏(即ち今年の夏)マドリールにてそれを完了する事であつた。

ロンドンの大英博物館で師は日本の教會に言及せる極めて興味ある文書を發見した。或る物語風のもので、その存在は知られなかつた。例へば福者ルイス・ソテロの未刊の書翰二通が擧げられる。これはオマエチエバリーア神父により、エスパーニャ・ミシオネーラ [España Misionera] IV, 1947. 9—28. 誌上で廣くスペイン人に紹介された。

師の研究は學問的峻嚴さと誠實に溢れてゐる。有名なシリング神父の書誌一覽表はレヒシマ神父により、リバデネイラ神父の著作に附して刊行された。又フランシスコ會士福者オドリユ・デ・ポデルドーネに關する研究により、彼「ポデルドーネ」の日本到着の傳説は永遠に否定された。師は嚴密な考證のもとに京都に於けるフランシスコ會員の最初の殉教者達の捕縛幽閉に關する事實と細目に互る事情を調査し、該殉教の他の諸事項及び状態の研究は將來に延期した。(Cf. Actonianum, 1948) 日本、フィリッピン及びメキシコのフランシスコ會日本人司祭、[Sacerdotes japoneses en las Misiones franciscanas del Japón, Filipinas y

Mejico]なる研究は極めて優れたものである。師は又「日本に於けるスペイン人フランシスコ會士」[Las misiones de los franciscanos españoles en el Japón] (II Pensiero Misionario, 1937—1938)で構成の妙と、新發見の史料を用ひて餘す所なく論及した勞作ぶりを吾人に提示してゐる。この見事な構成の小論に關し興味ある例として、私はその一節が日本に於てフランシスコ會士に採用された傳道方法の組織に充てられてゐる點を指摘したい。この刊行はすでにスペイン内亂中になされたものであり、又諸學者にとり裨益する事柄もある故、吾人はそれがスペイン語に翻譯される事を希むものである。

師の研究の最後の業績は最近刊行の書、「日本に於ける祭と政治」[Religion y Política en el Japón]であるが、既得の權威によらずとも、その書自體の持つ權威から、日本關係の問題を廻つて専門家を魅了するであらう。更に若干の著作の刊行が準備されたが、別して未刊のディエゴ・デ・サン・フランシスコに就てのユニークな事蹟が擧げられる。その寫眞版と紹介的論文を師自ら大切さうに私に示してくれた。

師の權威は世界的に認められ、又その署名は總ゆる國から希求され、日本、支那、ドイツ、ポルトガル、フランス、スペイン及びイタリアの雜誌に師の署名入りの論文が載つた。歴史的事實に對する師の眞摯な、公平な態度、並にいとほしみは充分に證明され、

且つ周知の事柄でもある。師はイエズス會の傳道上の事蹟に就ても、フランス會の傳道に關する論文を書くと同様の熱意を籠めて執筆した。傳道事業とそれに關聯する一切の事柄に對する師の愛情は限界を知らず、將それ「傳道」が救援の實踐上の希望は實行となつて表はれもした。それ故師の優れた若干の研究はさほど學問的ならざる性格の雜誌で陽光を見た。師の碎身の努力は無盡藏の資料を自身の圖書室に堆積するに至り、全世界の學者から質ねられるところとなつた。思つても見よ、一萬枚からの寫^{フォトコピ}眞と五萬枚に上るカードが備はつてゐたのである。世界的な尊敬と名聲に加へて、様々の國語を通じての師の協力は、師を幾多の學術機關及び學界がその名譽會員に推すといふ結果を招いた。例へばリスボア科學翰林院、並に歴史翰林院「Academia das Ciencias y Academia da Historia de Lisboa」ドイツ東亞自然民族研究會「Deutsche Gesellschaft für Natur und Volkerkunde Ostasiens」日本亞細亞協會「Asiatic Society of Japan」中東極東研究會「Instituto Medico ed Estremo Oriente」等が擧げられる。以上で宣教師並に研究者としての師の性格を語り終へたい。

師の人柄の別の面

シリング神父には、我々に卒直に好意を寄せ、又溫和、淡泊、質朴な性格を持ち、青年達に對し熱意を以て接するといふ他面が

あつた。一九三二年九月、バストラーナで私が師を識つた際、我々の遠足に師は喜んで若年である我々と行を共にし、師の得意の話題、傳道と旅行、を語つて呉れた。哲學學徒達に對しては更に深く接近し、東洋に關する見事な講演を通じて彼等の傳道研究會「Circulos Misionales」に参加するに至つた。蓋し師と我々は東洋によつて堅く結ばれてゐる事を感じたからである。以上の事、即ちその神學校の青年達の中に度々入り、暫くの間共に過した事に就て、又彼等の傳道研究會の名譽會員で、精勤な參會者であつた事に就ては「アルマ・セラファイカ・トレンティナ」[Alma Seráfica Trentina]（トレント神學校機關誌）誌上にも見られるところである。聖アントニオ大學^{フトレニア}で、又宣教方法論の教科で、師は何時も倍加した熱意と、何か新しい事を講義し得んとの希望と確心を以つて授業を開始してゐた。師の名は我々師を識る總ての者の腦裏を去らないであらう。

しかし更にスペイン人達を、愉快な氣持にさそふささやかな一事があつた。師が既に快方に向ひ、退院してからの私の最初の見舞の際、バストラーナ、コンスエルガ、マドリリー及びマニラに居る師の識つた宣教師達に關し私に質ねた後、次のやうに言葉を結んだのである。

「そちらの管區長と、ドウィケ・デ・セストの^(四)修道士の方々によろしく。神の許があれば來年はスペインへ、カトリック國スぺイ

ンへ参りますと傳へて下さい。さうして騎士的で、果敢で、又譽あるカステイリアの息子達に私の心からの挨拶を傳へて下さい。これは變つた言葉遣ひである。^(五)しかしシリノグ神父が實際に表現したその儘のものである。

病氣と死

一九四九年十一月、師は困難な手術に身を委せた。間もなく餘病併發し、身體組織が衰弱し切つてゐるため、手術は三回に及んだ。數ヶ月後、日本で發病してから三十年にもなる別の疾患、即ち血液エンペナシエント・デ・ラ・サングレの中毒の影響が病體に顯はれた。自己の重態を覺つたのか、このやうな言葉で苦痛を表現した。『今年は私にとつて危機である。私の母は六十四才で歿した。私は現在その年齢に到達した』と。

師は澤山の書翰を認め、又彼に附添ふ一修道士から己の重態を知らされて後、彼の親切を心から謝し、さうして聖なる數々の秘蹟を拜受して最後の旅立ちの準備をした。秘蹟の授受は教授達と總長、バリック神父の全員列席の中に行はれた。病狀は俄かに昂進し、間もなく意識を失ひ、讒言を繰返した。『本當に私は死ぬのか？ ス페인へ行かねばならぬのに。豫定した仕事は澤山あるのに！』呼吸は更に困難になり、心臓は麻痺して來た。醫師は心臓の働きを助けるために何本か注射をした。一人のエルマーノが注

射し易くなるやうにと、師の腕を取つた。病人は謝意を表するやうな身振りをした。しかし程なくして兩眼は閉ぢられた。主の葡萄園のこの良き農夫は報賞を受けるために去つたのである。その日は師の誕生日であり、當日六十四才になつたのである。以上は先に引用した雑誌「アルマ・セラフィカ・トレンティナ」誌上、シリノグ神父の臨終、三章「Ultimos momentos del P. Dorotheo Schilling, III, Alma Seráfica Tertina」に述べられてゐる。

ビブリオグラフィ

原文には、I 講演、II 未刊書、III 既刊論文、IV 小論と別れて居り全部で一五八項目が掲げられてゐる。その中から六八項目を選んで左に掲げた。講演の部を除いたので、I が未刊書、II が既刊論文、III が小論となつてゐる。排列は原文のものに従つた。

譯者

I 未刊書

1. Beschreibung des Kodex "Alphabeticum Giaponicum et exemplar" della biblioteca Casanatense auch Minerva genannt, Roma (Ms. 2.110), 2f, 283 mm., 26 mayo 1946.
2. Beiträge Katholischer Missionare des XVI und XVII Jahrhunderts zur Kenntnis der Insel Ezú und der Ainu. 60f.,

285 mm. H021 参照

3. De shintoismo et christianismo. 240 f., 255 mm.

4. Geschichte der japanischen Medicin. 49 f., 285 mm. H0
ノ 参照

5. Notizen über japanische Handschriften im britischen
Museum stenografert.

6. Religione e filosofie non cristiane a Giappone. 12 f., 285
mm. 傳類雜誌 (Propaganda Fide) のために書かれたもの

7. Storia della medicina giapponese (I). 54—XIV f., 285
mm. H04 参照 刊行のため、出版元に渡されたが、當時版に
附せられず、今日何人に渡したかは不明。戦争終結時に起きた事。

8. Synkretismus in Japan. 17 f., 285 mm.

傳類雜誌 (Propaganda Fide) のために書かれたもの

9. Verdienste der Italiener um die ersten Typographien in
Japan. 19 f., 285 mm.

中東極東研究會で行った講演。何時行はれたかは不明。

II 既刊論文

1. Die Ainu im Norden Japans; L'Illustrazione Vaticana.
VI, Città del Vaticano, 1935, 571—74.

2. Les Ainos du Nord du Japan. Eb. da (トランス語版)

571—74. 第三編 第三卷

3. Gli Ainu nel Nord del Giappone. Eb. da (トランス語版)
1285—88.

4. Attività scolastica dei Gesuiti nel Giappone durante i
secoli XVI e XVII; Il Pensiero Missionario, IX, Roma, 1937,
3—29; Isola del Liri, Soc. tip. A. Marioce et Pisani, 1937, 29
pp., 235 mm. H04 参照

5. Benemerenze delle missioni cattoliche nel campo della
scuola e della scienza in Giappone; Le missioni cattoliche e
la cultura nel mondo (cuaderni della cultura nel mondo, I,
Direttore Leo Magnino). Roma, 1949, 21—34. 編輯ローラの
記事に、その著者がミヤコに在りて。Scuola e scienza
in Giappone. 上の著作が民衆(カナダ)の兄弟愛奨励のための國
際的團體“Humanistas”の一九四八年年度集會の第二卷を獲得した。

6. Bereicherung der japanischen Flora durch Missionare
des 16. und 17. Jahrhunderts; Zeitschrift für Missionswissen-
schaft und Religionswissenschaft, VII, Münster, 1948, 192—97,
7. Betrieb der Hospitaler St. Joseph und St. Anna der Fr-
anziskaner in Miyako (1594—97); Neue Zeitschrift für Miss-
ionswissenschaft, V, Schöneck-Beckenried, 1949, 258—75

8. Bushio; ローマン大辭典 三卷 第三卷 Città del Vaticano.

- カトリック大辭典に、又カトリック書としてめぐる (1949), Col. 243—44
9. *Cattura e prigionia dei santi martiri di Nagasaki, Antonium, XXII, Roma, 1947 (201)—142.*
 この論文は著者が長崎二十六聖人殉教三五〇年記念の際、即ち一九四七年二月二十三日、ローマのサンニコラ寺院で行った講演の序文と長文と互に第一節より成せしものである。
10. *Christliche Druckerein in Japan; Gutenberg-Jahrbuch, XV, Mainz, 1940, 356—95.*
11. *Christus der Gekreuzigte in Asahigawa; St. Antonius, Fulda, 1934, 52.* 旭川ビロントンスロ街十ノヤノ・トマン
 [Zeno Fleck] 神父の努力による翻譯である。
12. *Il contributo dei missionari cattolici nei secoli XVI e XVII alla coroscenza dell'isola Ezo e degli Ainu; Le Missioni Cattoliche e la cultura dell'Oriente.* H. O. 総監
13. *Einführung des Tabak in Japan; Congresso de mund portugus. Publicações, IV vol.: Memorias e comunicações apresentadas a Congresso de historia dos descobrimentos e colonização (III Congresso) tomo II, II Secção: Imperio de Oriente, Lisboa, 1940, 137—56.*
14. *A introdução do tabaco no Japão.* H. O. 総監・トマン
15. *Erlebnisse zweier englischer Offiziere in Sapporo; St. Franziskusglöcklein. 1913 ó 1914.*
 ハロ・クナピク [Rodolfo Frederico Knapic] 譯 (Ib., 157—77)
16. *Erschwerte Finanzierung der Hospitaller St. Joseph und St. Anna der Franziskaner in Miyako (1594—97); Neue Zeitschrift für Missionswissenschaft, V, Schöneck Beckenried-Schweiz, 1949, 98—100.*
17. *Das erste katholische Sontangeblatt in Japan; Antoniusbote, XXVIII, werl. i. W., 1921, 167—70.*
18. *Der erste Tabak in Japan; Monumenta Nipponica, V Sophia University-Tokio, 1943, (113)—141.*
19. *L'état actuel du catholicisme et l'enseignement catholique au Japan; Au'our du probleme de l'adaptation. Compte rendu de la quatrième semaine de missiologie de Louvain, 1926, Louvain, 1926, 149—63*
20. *Der Franziskanermission in Japan während den Krieges; Jahresbericht der Thüringischen Franziskaner-Provinz zur hl. Elisabeth während der Kriegs und Revolutionsjahre, 1914—20. Herausgegeben von P. Gallus Haselbeck, O. F. M. Fulda, Kloster Frauenberg, 1922, 203—214.*
21. *Der gegenwärtige Stand der Katholischen Kirche in*

- Japan; Die katholischen Missionen, LIX, Aachen, 1926, 9—11, 42—48.
22. Gründung der Hospitäler St. Joseph und St. Anna der Franziskaner in Miyako (1594—95); Neue Zeitschrift für Missionswissenschaft, V, Schöneck Beckenried-Schweiz, 1949, 1-18
23. Die Hospitäler St. Joseph und St. Anna der Franziskaner in Miyako (1594—1597). Schöneck Beckenried-Schweiz, 1950. ミヤコの新設した聖ヨゼフと聖アナーの病院
24. Die Hospitäler St. Joseph und St. Anna der Franziskaner in Miyako im Dienste der Glaubensverbreitung (1594—97); Neue Zeitschrift für Missionswissenschaft, VI, Schöneck Beckenried-Schweiz, 1950, 35—47.
25. In der Heimat des hl. Petrus Baptista. Zum 5 Februar; St. Antonius, XXXIII, Wiesbaden, 1934, (45)—50.
26. Introduzione all'opera di Leo Magnino; Pontificia Nipponica, Le relazioni tra la Santa Sede e il Giappone attraverso i documenti pontifici, I. Roma 1947, pp. IX—XII.
27. Das japanische Sprachstudium der Jesuiten in 16 und 17 Jahrhundert; Thuringia Franciscana, IX, Fulda, 1929, (169)—175: Die katholischen Missionen, LVI, München-Gladbach, 1930, 42—44.
28. Ju roku-Shichi seiki ni okeru Jezusukwai-shi no kyoiku jigyo (十六七世紀の日本に於けるイエズス會社の海外傳業) : ルネサンスの日本 1, Tokio, 1940, 742—51.
29. Le missioni dei francescani spagnuoli nel Giappone. Primo Periodo (1593—1597). Secondo Periodo (1598—1613). Terzo Periodo (1614—1639); II Pensiero Missionario, IX, Roma, 1937, 289—309; X, 1938, 193—223, 289—300.
30. Nella festa dei Protomartiri del Giappone; Le Missioni Francescani dei Frati Minori, XXI, Roma, 1943, 62.
31. Die neue Franziskanermission in Süd-Japan; Antoniusbote, XXXIV, Verl. i. w., 1927, 173—76.
32. Neue Funde zu den christlichen Drückereinn Japans im 17 Jahrhundert; Monumenta Nipponica, III, Tokio, 1940, 356—95.
33. Neue Funde zur "Historia de Japão" von Luis Frois, S. J.; Zeitschrift für Missionswissenschaft und Religionswissenschaft, XXIII, Münster i. W., 1933, 337—43. ルイス・フロイスのP. Luis Frois, S. J. Segunda parte da Historia de Japão, que trata das couzas que socederão nesta V. Provincia da Hera

Mit zwei Karten. Leipzig, 1930. XXVIII—86 pp., 235 mm. 輯
蘭蘭文體本體文。回生 中本體 以體體や本だ。

46. Siebold e la scienza occidentale in Giappone; Asiatica, VII, Roma, 1941, 457—70.

47. Shintoismus et christianismus. Ad usum privatum et pro manuscripto, Roma, 1941, 1943—44, 1946. 200 pp., 245 mm

48. De shintoismo. Ad usum Privatum et pro manuscripto, Roma, 1941, 1943—44, 1946. 200 pp., 245 mm.

49. Von Sapporo über die Vulkanbai nach Hakodate (一ノ
一川 中 中 中 中 中 中) Sandbotenkalender, Metz, 1915, 61—68.

50. War der Franziskaner Odorico von Pordenone im 14
Jahrhundert in Japan?; Monumenta Nipponica, XI, Tokio,
1943, (86)—109.

51. War der Selige Odorich von Pordenone, O. F. M. in
Japan?; Archivum Franciscanum Historicum, Quaracchi-Fire-
nze, 1942, 153—76.

52. Wohläter der Hospitälner der Franziskaner in Miyako
(1594—1597); Neue Zeitschrift für Missionswissenschaft, V,
Schöneck Beckenried-Schweiz, 1949, 189—202.

53 Zur Geschichte des Martyrerberichtes des P. Luis Frois,
S. J.; Archivum Historicum S. J., Roma, 1937, 189—202.

54. Zwei unveröffentlichte Briefe des seligen Ludwig So-
telo, O. F. M.; Antonianum, XXX, Roma, 1945, (127)—148.
スヤヤノ體體の。 España Misionera, IV, Madrid, 1947, 9—
28. 以體體や本本。

III 小 論

中の體體と中の中。

1. Acta Ordinis Minorum, años 1941—48.

2. Antonianum, 1935—39, 1941—42, 1944, 1948—49.

3 Collectanea Franciscana, XII, 1943, 439—49

4. Zeitschrift für Missionswissenschaft, XVII, 1927, 172,
174—75, 255.

5. Bibliografia Missionaria, Roma, Piazza di Spagna. 48,
volumenes I—XIII.

以上の書籍をリリング神父の日記を参考にしたので、詳細なものを
とした。その日記には次のような事が記されている。即ち
「既に余は學生の頃から傳道事業のテーマに關する夥しい論文を
執筆した。例へば「アロイス・フオン・レーマン・シュタイン公
の編輯にかかると Korrespondenzblatt のために。後にされるの論
文は他の刊行機關により再版された。一九一一年—一九二二年に日
本の傳道に關する幾多の論文をフルダの出版所及び他の出版所か

ら又公けにした。一九一九—一九二〇の兩年に又もや數々の論文が日本語で週刊誌、光明(Luz)に出現した。その編輯者は余であつた。かかる事實は吾人に次の事を十二分に證明する。即ち、師の學生時代、並に司祭の品級を受ける以前の發表は少からずあり、且つその一切に就ては、師自ら吾人に教示する以外、知る由もないといふ事を。

フランシスコ會員

オドルフォ・シェーファー

アントリン・アバー

一九五一年三月二五日

ローマ

註

(*) アルチーボ・イベローアメリカノ誌は、この傳記並に書誌的小論を以つて、ドロテオ・シリング神父の記念とし、又我が誌、我が祖國に寄せられた同神父の深い愛情に恭敬を捧げる次第である。なほシェーファー、アバー兩神父に、この勞作を當誌が版に附し得た事に就き、衷心より感謝する。

(一) P. Marcelo de Ribadeneira, O. F. M., Historia de las islas del archipiélago Filipino y Reinos de la gran China, Tartaria, Cochinchine, Malaca, Siam, Cambodge y Japon. 1947年 P. Juan R. de Legisima, O. F. M. の編輯の *Evangelización de Filipinas y del Japon* と題されて公刊された。シリング神父編の書誌は四五頁にわたる大部のもので、巻頭に附せられてゐる。

(三) ビブリオグラフィ II 50 51 参照

(四) *Duque de Sexto* マドリッド市内の一地名、フランシスコ會の修道院がある。

(五) 原文には *un poco retórico* とある。シリング神父の言葉である「騎士的」*caballerosa* を指してゐる。現代ではこのやうな古めかしい武張つた語を使はないのに、わざと使つたのでスペイン人の自尊心の満足があつたのだらう。

文中の *カッチュ* () は原文にあるもの。「 」と註番號は譯者の附したものである。

筆者 *Oduño Schafer y Antolin Abad* 兩神父に就いてはよく識らない。御教示を賜はらば幸である。(岩谷十二郎)

前嶋信次氏提出學位請求論文審査要旨

(一) ビブリオグラフィ II 40 参照

譯註

主論文